



高知大学  
Kochi University

All roads *lead* to the future リード

# Lead

コミュニケーションペーパー

2018 秋号  
Autumn

No. 027

¥0  
TAKE FREE

〈特集〉

鳥に食べられて、分布を広げる！  
謎めくナナフシ  
子どもたちの  
「美しいと思う心」を育む

ぼくらのキャンパスライフ

OBの思いとともに水面を進め

復活! ボート部

キラ星高知大生

ボディビル・フィジーク部門で全国2位  
筋トレのすばらしさを広めたい!

Support 高知大学生協

キャンパスライフをがっちり応援!

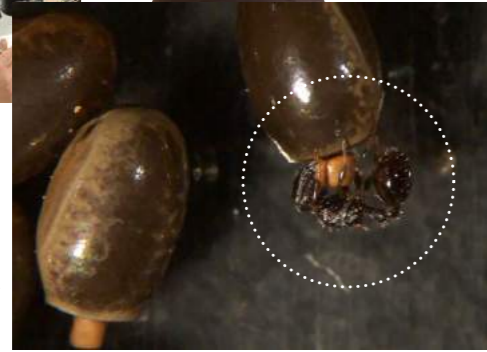
高知大学ニュース

鳥に食べられて、分布を広げる!? 謎めくナナフシ



▲顕微鏡での観察の様子

エダナナフシの卵の付属物(蓋帽、がいぼう)を大アゴでくわえるトビイロシワアリ▶



新たなテーマは、離れた地域で捕獲したナナフシのDNAの塩基配列を解析し、地域性を探ること。以前、研究室にいた学生が、クモに近い仲間のザトウムシで同じ研究をし、明らかに地域性があることを突き止めていました。「ナナフシのような羽がない昆虫は普通、大きな川や高い山に囲まれた地域で近親交配を繰り返すので、DNAの塩基配列に地域性が出てきます。ところが、県内のナナフシには地域性がまったくなかった。この結果から、長距離を移動するメカニズムがあるのではないかと

考えたくなります」地域性に関する卒論を仕上げた舟木さんは大学院に進学。引き続き伊藤先生の指導のもと、次は移動のメカニズムについてのナナフシの研究を深めます。鳥が排せつした卵を孵化させることに成功

### 鳥が排せつした卵を孵化させることに成功

ナナフシの移動手段として、苗木などにいたものが車で運搬される可能性も浮かびます。けれども、ナナフシは森林の植物に多く、農作物にはあまりつかないの、人為的な

移動の可能性は小さい、と伊藤先生と舟木さんは考えました。こうした議論を経て、新たな研究では「鳥に食べられて分布拡大する」という仮説を立てて追及することにしました。ナナフシはメスだけで繁殖できる単為生殖も行う昆虫。メスの体内に成熟した卵があれば、鳥のフンとして排せつされたのちに孵化する可能性があります。このテーマに興味を持ったのが、神戸大学の末次先生と東京農工大学の横山先生。2大学の協力を得て、練り餌にナナフシの卵を混ぜ、ヒヨドリなどに食べさせて、フンから卵を取り出す実験を繰り返します。

卵がそのままの形で出てくる場合があることは、早い段階で判明しました。ただし、フンから取り出した卵を孵化させることはできません。舟木さんの大学院での研究はここで時間切れとなり、卒業して就職しました。しかし、ナナフシが好きでたまらない舟木さんは、その後も独自に研究を続けます。そして、約1年たった今年の春、伊藤先生のもとに「卵が孵化しました」というメールが届きました。他の昆虫とは違って、ナナフシの卵はあまり低温にさら

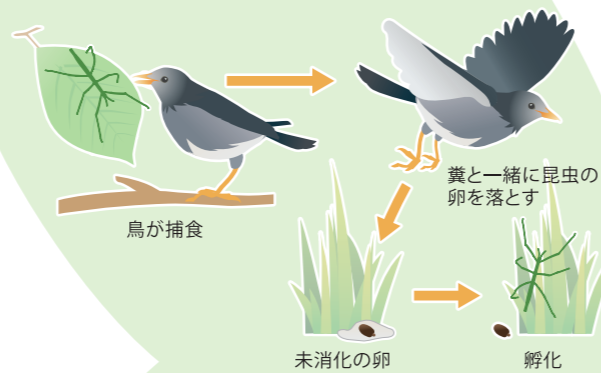
さないほうが孵化しやすかったのです。「これで大手を振って、ナナフシは鳥に食べられることによって分布を拡大し得る、といえるわけです。舟木君のメールは興奮気味でしたね」と伊藤先生は振り返ります。ナナフシの分布拡大に関する研究は、さらに膨らみを見せています。興味深いのは、アリがナナフシの卵を巣に運ぶことがあるという発見です。「ナナフシの卵の殻の一部には栄養があることがわかっています。アリが巣の中でそれを食べ、ナナフシの卵は巣の中で身を守り、冬の寒さをしのぐ。こうした相利共生があったらすごいな、と夢は広がります」と伊藤先生は語ります。

さらに、ナナフシが鳥に捕食されて分布を拡大するのなら、なぜ擬態して見つからないようにしているのか。鳥の渡りのルートと、ナナフシの遺伝的な地域性に関連はないのか……。「派生するテーマはいくらでもあります。日本ではナナフシの研究は少なく、他大学でもあまり取り組んでいません。私にはアリとの関係性にすごく興味がありますね」と伊藤先生。今回の斬新な研究の中心となった高知大学は、これからは新たな謎を解き

総合科学系 生命環境医学部門 准教授

### 伊藤 桂

北海道出身。京都大学農学部農林生物学科、同大学院地域環境科学科修士課程修了、北海道大学院環境資源学専攻博士課程修了。博士(農学)。2010年、高知大学に赴任。専門はハダニの研究。「落葉樹のハダニの研究はヨーロッパで盛んですが、常緑樹のハダニは分類すらされていません。高知は常緑樹が多いので、すぐに新種が見つかるですよ」



鳥に食べられて、分布を広げる!?

# 謎めくナナフシ

木の枝そっくりなナナフシ。この奇妙な昆虫は、意外な方法で分布を拡大している可能性があることが判明! 研究の中心になった「昆虫生態学研究室」の伊藤桂准教授に、そのメカニズムをお聞きしました。



研究室で飼育しているエダナナフシ

ナナフシのDNAを電気泳動する舟木さん▶

### ナナフシ好きの高知大生がキーマン

成熟したナナフシのメスが鳥に食べられた場合、卵は消化されず、排せつされた場所で孵化する可能性がある——。昆虫研究者たちを驚かせたこの新説を発表したのは、高知大学生命環境医学部門の伊藤桂准教授の研究チーム。神戸大学の末次健司特命講師、東京農工大学の横山岳准教授らと、大学の垣根を越えた共同研究を行って突き止めました。

ナナフシが大好きな舟木さんが4年生の時、伊藤先生の「昆虫生態学研究室」に入って研究は始まりました。「舟木君はナナフシをぜひ研究したいと熱心でした。ナナフシはライフサイクルが1年と長く、卒業研究でまとめるのは難しいかもしれないとは思いましたが、まず卵を孵化させることを研究テーマとして与えました」伊藤先生はナナフシ研究のスタート当時について、こう振り返ります。擬態をする昆虫なので、多数捕まえることが自体が困難とも思っ



エダナナフシの卵の採取の様子(左)と顕微鏡での拡大写真(左)

### DNAに地域性なし! 飛べない虫なのに、なぜ?

しかし、舟木さんの強い熱意を持ってしても、卵をうまく孵化させることができません。通常、昆虫の卵はいったん低温下に置けば孵化するのですが、「ほぼ反応がない。このままでは卒業にならない……」と考えた伊藤先生は、研究テーマを変更してはどうか、と舟木さんに持ちかけました。

# 子どもたちの「美しいと思う心」を育む

学部と附属幼稚園が連携 — 絵具遊び活動に関する実践的研究 —



教育研究部 人文社会科学系  
教育学部門 教授  
**玉瀬 友美**  
京都女子大学家政学部卒業。奈良教育大学大学院教育研究科、聖徳大学大学院児童研究科、修了。博士(児童学)。2016年より幼稚園園長を兼務。「絵具遊びの後、ある子どもは自発的に、『私ね、好きな色が増えたの』って言いに来てくれました。本当にうれしかったですね」

高知大学では教育研究のために、また、地域のモデル校園としての役割を果たすために教育学部附属の幼稚園、小中学校と特別支援学校を設置しています。附属学校園は教育の実践研究の場として大学と連携し、様々な取り組みを行っています。そんな取り組みのひとつ、「絵具遊び活動に関する実践的研究 学部教員と連携した幼児教育プログラムの開発」を紹介します。

## 子どもたちの「美しいと思う心」を育む



展覧会で展示した園児の作品。  
左から「雨が降って雷がなった」、「虹」、「てっぼう」、「となりのトトロ」

この絵具遊びで、園児たちは様々な気づきを経験します。年少児は色と色を混ぜることで、違う色が生まれることを。年中児はより深く、色を混ぜることの楽しさを、年長児は好きな色が増えることを。「園児たちは絵具まみれになって、とてもダイナミックに楽しんでいました」

**研究成果は論文や書籍で地域に還元**

プロジェクト実施後、園児たちの作品を使った展覧会も開催。朝倉キャンパスの教育学部棟や図書館

のほか、医学部附属病院外来診療棟でも展示しました。

「展覧会は、美術が専門の先生からの提案です。私たちには、思いも及びませんでした。美術の専門家ならではの思いがあります」

附属病院での展覧会は、「子どもを病院に展示しよう」という大学の共通教育科目と連携したもので、鑑賞する人の癒しの空間を創出することにつながりました。

「子どもたちの絵は本当にのびのびとした作品なので、きつと病院に来られる方も見て心が和まされたのではないのでしょうか。立ち止まって鑑賞してくださいました」

絵具遊びのプロジェクトでの研究内容は、関わった教員による論文や学会発表などで発信。病院での展覧会も、「病院空間におけるアートの役割—高知大学医学部附属病院におけるアートの活用と教育実践—」の論文にまとめられました。

玉瀬先生も、「豊かな感性を育む幼児教育—絵具遊び活動が幼児の色への興味に及ぼす影響について—」という論文を発表しています。絵具遊びによって好きな色が増えることを、実験的に確かめた研究です。

「世の中は様々な色で構成されています。色への興味が高まること

自由で創造的な学びのための絵の具遊びを研究する

「附属幼稚園は、教育の実験的・先導的研究をするという役割を持っています。理論だけでは教育は成り立たないので、大学教員が実践に根付いた研究をしていくためのフィールドでもあるのです」と話すのは、附属幼稚園園長で教育学部教授の玉瀬友美先生です。

附属幼稚園では、教育学部の幼児教育、美術教育、音楽教育、教育科学、家庭科教育、理科教育、保健体育教育が専門の教員たちとともに、幼児期の豊かな感性を引き出すための独自プログラムを開発。実際に学部教員らが園児に遊びを通して指導することもあります。

「例えば、理科教育が専門の教員が来て、園内にどのような木があるのかを園児に教えました。大学は、知の宝庫なので、その知見を活かして学部教員が園児や園の先生の指導に訪れます。一方で、教員のこのような取り組みはまた、自身の研究にもつながってきます」

今回紹介する絵具遊びに関する取り組みも、このような学部教員との連携で実施。教育学部の部

で、いろいろなことをしてみたいという気持ちが起こったり、楽しくかわる基礎になると思いました。絵具遊びを始める前に、園児たち二人ひとりに何色が好きか聞いたり、色見本を見せてどの色が好きかを聞きました。遊んだ後でもう一度同じ質問をすると、好きな色が増えていました。ある子どもは自発的に「私ね、好きな色が増えたの」って言いに来てくれたのです。子どもたちの発達において非常に大事なことを学べていることがわかり、絵具遊びの大きな成果だと感じました」

この3年間の取り組みの活動内容や教員らによる論文などの研究成果は、書籍化することが計画されています。

「担任の先生が作成した指導案なども掲載し、幼稚園で働く現場の先生方が実践で参考になるような内容にする予定です。当園の役割のひとつに、高知県の幼児教育のレベルアップに貢献することがあります。今回の取り組みも、教育力の向上につながればと考えています」

学部と附属幼稚園の連携によって、理論と実践が融合した研究が成果を上げています。これからも、幼児教育における様々な研究が誕生すると、大いに期待されています。

### 高知大学教育学部附属幼稚園 園児募集

入学願書配布中。今年度から選考日が早くなり、募集地域も広がりました。

詳しくは [高知大学附属幼稚園](#)

### 70周年記念誌

附属幼稚園は今年度、創立70周年を迎え、記念事業として記念誌と『保護者と保育者で作る幼稚園図書室～生まれ変わった『絵本の部屋』～』を刊行しました。記念誌をご希望の方は、附属幼稚園(Tel.088-822-6417)までお問い合わせください。



### 参加学生の声

高知大学教育学部 幼児教育コース 山本 実奈さん

学生の時に子どもたちと関わる機会を増やしたい、子どもの発達段階についてもっと知りたい思い、参加しました。「素敵な色使い(花火)だね!」と声をかけたり、単色だけでなく、混色で色が作れると伝えたり、色々な表現ができる環境をつくるサポートを行いました。活動中、水が紙に掛かってしまった子どもが、偶然できた模様がいいと判断する場面もあり絵具遊びの偶然性に驚きました。

絵具遊びのプロジェクトが始まって、今年で3年目。各年で1回ずつ、絵具遊びを実施しました。2年目に行ったときの様子を紹介しますよ。

年少児は指や手のひらで好きなものを描くフィンガーペインティング、年中児は水を敷いた紙の上に絵具を垂らす「ぼたぼた絵」、年長児

### ダイナミックに色と触れ合い新しい気づきを経験

内容は幼稚園の年少、年中、年長の各学年の担任が、園児の発達段階に合わせて検討。この原案を基に、さらに学部の美術教育専門の教員や玉瀬先生が入って検討し、具体的な内容を決めました。

「美術に関する教育を研究しようということで、絵具を使った教育プログラムの開発を目指しました。文部科学省の幼稚園教育要領では、主体的な学びと定められています。そこで、子どもたちの発想の下で、自由で創造的な学びを提供できないかということで、手本があるものではなく、色の楽しみから入ってみようと考えました」

学内外でキラッと光る  
高知大生をピックアップ!



大会2位の肩と  
ドックタグ



ボディビル・フィジーク部門で全国2位

## 筋トレの すばらしさを 広めたい!

### 》やればやるほど結果が出る 筋トレに夢中

たくましい胸板、がっしりとした肩、キュッとしまったウエスト…。肉体美を競うボディビルの全国大会で、人文社会科学部2年の吉門享栄さんは2位の成績を収めました。

中学、高校時代はレスリングに打ち込んでいたという吉門さん。中四国大会で2回の優勝を果たすなど活躍しましたが、厳しい減量に限界を感じ、高校で引退。競技を辞めたら太ってしまい、自宅で筋トレを始めたことがボディビルを始めるきっかけになりました。

「練習をすればするほど筋肉がついていき、使う重りもどんどん上がっていく。鏡の前に立つと、自分の体が変わっていくのがわかる、それがおもしろくて」と筋トレにのめり込んでいった理由を吉門さんは話します。

やがて自宅では重りが足りなくなり、大学1年の秋に土佐市のトレーニングジムに入会。バーベルの重りが豊富に揃い、50kgのダンベルもあるという、設備の充実したジムを選びました。以来、ほぼ毎日、トレーニングに通っているといいます。

「週7回ではなく、時には昼寝をはさんで1日2回行って週10回になることもあります。筋トレはきついと思われているようですが、僕にとっては食べる、寝る、筋トレする…。やって当たり前だし、やらないと体調を崩したり、太ってしまったりします。何よりも、筋トレ自体が楽しいんです。今日はどんなトレーニングをしよう、どの筋肉を鍛えようと、24時間、筋肉のことを考えています」

「フィジーク」の世界選手権の映像を見たことが、吉門さんをさらに駆り立てました。フィジークはボディビルのカテゴリーのひとつ。ボディビルは大きな筋肉が



高く評価されるのに対し、フィジークが目指すのはピーチで目を引く体。逆三角形のシルエットで、肩の盛り上がった筋肉や細く締まったウエストが評価されます。

人文社会科学部2年  
よし かつ たか はる  
**吉門 享栄さん**  
高知県出身。国際社会コースで学ぶ。ジムではパーソナルトレーナーも務め、指導にもあたっている。将来の夢は、プロのボディビルダーだ。「大好きな筋トレを好きなだけできる仕事です。まさに天国!」

「ひと目見て、カッコいい!と思いました。筋量が多く、脂肪が極限までそぎ落とされた状態。こんな姿になりたい、そして、自分も出場してみたいという思いが湧いてきました」

### 》ステージ裏の交流で 筋トレへの思いを共有

6月のフィジークの大会への出場を決めた吉門さんは、フィットネスの本場、アメリカに武者修行の旅に出ます。

「春休みに1カ月ぐらい、レンタカーを借りてカリフォルニア中のジムを回りました。ジムでは、自分のような外国から来た人に対しても同じ仲間として接してくれ、よく来てくれたとまでなしてくれました。優しさを感じましたね」

帰国後は大学に通う傍ら、大会出場に向けて減量を開始します。「アメリカの文献などを読んでトップ選手が行っている減量方法を調べ、なかでも自分の体形や代謝量などが似ている人の方法を参考に、実践しました」

こうして吉門さんが初めて臨んだ大会は、フィジーク10代の部。独学で学んだポージングで、ステージに上がりました。結果は11名中2位。筋肉の大きさが評価されたものの、減量に失敗して体脂肪を絞り切れなかったのが敗因、と吉門さんは分析します。

「ステージ裏では、選手同士で筋肉を見せ合ったり、どのように減量したのか話合ったりしました。ボディビルは何のシバリもない状況で自分を追い込む、まさに自主性を体現した競技だと僕は思います。そうやって自分の体に向き合ってきた人が集まっているので、筋トレに対する思いが一緒に、話をするのがすごく楽しかったです」

次はボディビルの要素が強い「クラシックフィジーク」部門にチャレンジすること。フィジークと違い、太ももの筋肉も評価の対象になるため、下半身の強化にも力を入れていきたいと思います。

すでに決めている卒論のテーマは、フィットネスと大衆文化をつなげて、それを日本とアメリカで比較するというもの。

「大衆文化としてフィットネスを普及させる、というのが僕の最終目標。筋トレのすばらしさを、もっともっと広めていきたいですね」と将来の夢を語ります。

## 大衆文化として フィットネスを普及させる というのが僕の最終目標



# OBの思いとともに 水面を進め 復活! ボート部



## OBがバックアップ

国分川の水を切って進むボートに乗って、練習に汗を流す高知大生。18年ぶりに復活した、ボート部の練習風景です。

高知大漕艇部(現:ボート部)は1957年創部で、高知大学の部活の中でも長い歴史を誇ります。全国大会でも上位に入る強豪として名を馳せましたが、部員が減少し、99年に廃部。しかし、2017年、復活に向けた動きが起ります。現在、代表を務める山下智哉さん(理工学部2年)は、そのときの経緯を「ラッキーな偶然が重なった」と話します。

山下さんは香川県出身で、高校時代はボート部に所属。ボートを通じて知り合った高知県在住の友人が、国体予選、国体本選などにも出場し、競技スポーツとしてボートを続けていた高知大4年生の先輩とつながりがあったことから、話が急展開します。「僕が入学した時に、この先輩と一緒に



ボート部部长 山下 智哉さん

やろうと声をかけてくれたんです。これをきっかけに、2人で活動するようになりました。当初はボートサークルだったので、漕艇部OBの方のサポートもあって、再びボート部をつくらうという機運が高まりました」

大学公認の部でなければ出場できない競技会もあり、山下さんらとしても、ぜひ部として活動したいところ。部の復活に向けて大学と話し合いを始めた。そこで、OBの後押しが効果を発揮します。「OBの方からは、どのように大学と交渉すればいいかアドバイスをいただきました。交渉の場にも立ち会ってくださり、なかでも

漕艇部の歴史などをまとめた資料を持ち込んで、直接、大学で説明して下さったのが決め手になったと思います」

様々な努力の甲斐があつて17年11月、ボート部の創部が認められました。OBの力強い支援はほかにもあり、1人乗りのボートであるシングルスカルの寄贈を受けました。新艇は、OB会の名称「湊湊」にちなんで、「湊湊」と命名。また、トレーニングマシンのエルゴメーター2台も寄贈され、朝倉キャンパスでのトレーニングも可能になりました。

## 先輩から後輩へと つなげるボート部の絆

練習環境が整い、今年4月には2人の新入部員も入部。本格的に活動を始めました。部になって最初に出場した競技会は、5月に滋賀県で行われた第71回朝日レガッタ。山下さんが「一般男子シングルスカルの部」に出場しました。



ボート部部員 野川 稔寿さん  
ボート部マネージャー 神野 桃香さん

### ボート部

水・木・土・日曜は国分川でボートを使った練習を、月・火・金曜は朝倉キャンパスでエルゴや筋トレなどのトレーニングを行う。現在、新入部員を募集中で、初心者も大歓迎。

問い合わせ先  
tasakoto327@gmail.com

「神戸に住むOBが、自分の艇を琵琶湖まで運んでくださり、その艇で闘いました。しかも神戸から毎日、応援に通ってくださいました。結果は振るいませんでしたが、応援は本当に心強かったです」

6月の西日本選手権競漕大会では7位、8月の関西選手権競漕大会では準決勝に進出しましたが、惜しくも決勝には進めませんでした。しかし、目標の全日本大学選手権に向けて、練習は続きます。

「OBのおひとりから、学生だった時先輩にフォローしてもらえたから、今は自分たちがボート部を応援している」と聞きました。そんなOBの支援に伝えるためにも、まず自分が成績をあげなければなりません。初心者の新入部員も、そろそろ「レギュラー」戦を考えています。部員の勧誘や指導などを行って、長く続く部となるよう頑張りたいですね」



ボート部部員と漕艇部OB (寄贈を受けたシングルスカル)

**高知大学生協では、学生が快適に学ぶためのさまざまなサービスを提供しています。多くの学生にとって、なくてはならない存在の高知大学生協同組合(以下・高知大学生協)の取り組みに、ぐっと迫ってみましょう。**

**学生の入学から卒業までを側面から支援する緑の下の力持ち**

健康的な毎日を送るための食事や、学びに必要な書籍、快適に暮らせる住まい、等々。キャンパスでの日々の多くの場面で、学生は高知大学生協に支えられています。

大学生協とは、学生や院生、教職員からの出資・利用参加を基礎に運営される、営利を目的としない団体です。学生も組合員として加入することで、生協のサポートを利用することができ、現在、9割以上の学生が生協に加入しています。

「高知大学生協は高知大学から委託を受け、福利厚生の実施などに向けた活動を行っています」と話すのは、同組合専務理事の浜崎敬三さんです。



「高知大学生協は1966年に設置され、今年で52年目を迎えます。当初は「食べる」と「学ぶ」とを基本にして、食堂と文具やテキストなどを販売するショップからスタートしました」

現在は朝食キャンパスの本部を中心に、「食堂」「ショップ」「住まい」「講座」「共済」の5つの部門が、学生に向けた活動を展開しています。多くの学生たちにとって、高知大学生協はキャンパスライフを充実させるためのなくてはならない存在です。

「高知大の学生さんが、入学から安心して便利に大学生活を送ることができて、高知大に来てよかったと思う卒業生、そのために側面からお手伝いさせていただくことが、私たち高知大学生協の一番の役割です。近年は、学生さん向けの賃貸物件の紹介や共済保険など、ニーズに合わせて活動範囲が広がっています」

**互いに助け合うという人とのつながりで成り立つ組織**

全国の多くの国立大や私大に設立され、全国で220ある大学生協。高知大学生協はこれらと連携する

ことで、各大学生協での取り組みを通じて得た教訓などを共有しています。

「他の大学生協で成功した取り組みを取り入れたりもします。例えば、食堂の年間利用定期券である『ミールカード』は九州の大学生協が始め、それが全国に広がりました。全国規模で学生のニーズや動向を把握でき、単独では難しいスピード感をもって様々な取り組みを展開できるようになっています」

高知大学生協のもうひとつの強みは、学生自身も事業に関わっていること。高知大学生協に所属する学生団体「学生委員会」は、大学生協と組合員の架け橋となり、学生自らの意見や要望を伝えています。また、仲間づくりなど学生生活のスタートも応援する新入生を対象にした新歓企画や、健康チェックの企画などを開催します。

「また、高知大学生協で開催する各種講座や住まい探しでも、先輩大学生がサポーターとして参加します。先輩サポーターならではのアドバイスを受けられることができると好評です。生協はそもそも、人と人とのつながりで成り立っている組織です。高知大学生協を利用し、活動に関わっていただくことで、思いやりや助け合いの心を育ててもらえればと思います。私たち生協は大学職員や先生方とは違う立場で、気のいいおじさん、おばさんとして学生の皆さんを支えていきたいですね」と、今後も学生のキャンパスライフの応援を力強く約束します。



# 高知大学生協

## Support

キャンパスライフを  
がちり応援!



**食堂担当・稲田奈緒子さん**

しっかり食べて、しっかり学ぼう!  
**生協食堂**



3つのキャンパスで食堂を運営し、学生さんが健康的な毎日を送ることができるよう、食生活を支える活動を行っています。特に利用をお勧めしているのが、料金を一定額、先払いしていただく「ミールプラン」です。例えば、18万5000円を一括払いで支払っていただくコースでは、毎日、1000円まで利用することができます。食堂は年間260日営業するので、26万円分の食事がとれる計算になります。さらに朝食を250円分、割引を受けることができます。朝食メニューは251円からあるので、実質1円で朝ごはんが食べられます。ミールプランのメリットは、利用できるのが食事のみという点です。仕送りが確実に食費に結び付きます。さらに保護者もネットで利用履歴を見ることができ、どのような食事をとっているのかを確認できます。



生協に加入すると  
学生証で電子マネーや  
食育ミールプランが  
使える!



**共済担当・浜崎敬三さん**

助け合いの制度でリスクに備える  
**共済**



学生総合共済は、万が一の時に学業を継続できるように、みんなが少しずつお金を出し合って、自分と仲間のために使われる制度です。リスクに備える点では保険に近いのですが、自分だけでなく助け合いの制度である点が違っています。高知大学では学生全員が入る災害補償制度がありますが、大学管理下での補償です。そこで学生総合共済は、24時間365日、大学内外を問わず、事故や病気をカバー。大学生になると、バイトなどで活動範囲は格段に広がります。共済にあわせて学生賠償責任保険への加入もおすすめしています。



**学び担当・福井章弘さん**

大学での学びと将来のための講座を開催  
**学び**



大学での学びや将来の進路に役立つ様々な講座を開講しています。1年生向けのパソコン講座と英語に関する2つの講座には、先輩大学生がアドバイザーで入るため、実践的できめ細やかな指導が可能にしています。このほか、生協店舗で商品開発などの体験ができるキャリアアップ講座なども開催しています。3年生対象は、今年で19年目になる公務員試験対策講座がメインです。膨大な科目数がある公務員試験を効率よく進めることができ、また独学では難しい面接などの指導も行います。合格したメンバーが、サポーターとして後輩の学生さんたちに勉強法や体験談などを伝える場も設けています。また、教員採用試験対策講座も実施しています。



## こんなにいろいろ! 生協で出来ること

**ショップ&住まい担当・黒原英彰さん**

学生の学びと教員の研究活動に貢献  
**ショップ**



学生さんの学びと先生方の研究活動への貢献が、ショップの役割のひとつ。例えば、大学推薦パソコンを販売しているのですが、4年間保証付きで、壊れたときなどの修理にも学内の生協窓口で対応しています。入学から4年間、安心して使い続けることができる環境です。ショップでは組合員は書籍を5%、教科書や雑誌は10%割引で購入できますが、昨今、学生さんの本離れが問題になっています。そこで、大学4年間で100冊の本を読もうという「読書マラソン」を行い、読書推進運動に取り組んでいます。学生の皆さんが読書に親しんで教養を高めてもらうための取り組みを模索中です。



生協管理物件なら24時間対応で安心・安全  
**住まい**

高知大学生協では10年ほど前から、大学生向けの賃貸物件を紹介して住まい探しをお手伝いしています。毎年入学前には「新入生サポートセンター」を開設し、各キャンパス周辺の物件の紹介から、内覧、賃貸契約まで1日で完了するようサポート。お部屋選びや物件の内覧は、現役の先輩学生さんもスタッフとして対応します。生活はもちろん、大学での講義などもアドバイスできるよう、同じ学部の先輩をマッチングするので、新入生の皆さんは役に立つ情報を得られると思います。生協が直接管理している物件については、困ったことが起きた時は24時間365日、電話で対応。また入居中のトラブルや修繕、騒音等の困りごとの解決もお手伝いします。



## 櫻井克年学長が台湾 USREXPO 2018 で基調講演

7月28日から29日にかけて台湾の台北市国立台湾大学で開催された「University Social Responsibility EXPO in Taiwan」に櫻井克年学長が参加し、スーパー・リージョナル・ユニバーシティーを目指す高知大学の取組について基調講演を行いました。

University Social Responsibility EXPOは、台湾教育部の指導の下、大学社会責任推進センター、国立成功大学、国立台湾大学が主催する、大学の地域連携に関する情報・技術交流を目的とする台湾最大のイベントです。今回の講演は、台湾教育部から招待を受け、台湾における大学の社会的責任の推進を目的に実施されました。

櫻井学長は、「The Regional Collaboration Towards "Super Regional University"」と題して、地方創生に期待される大学の役割と本学が実践している土佐FBC、大学COC事業、COC+事業等の取組を紹介しました。



基調講演を行った櫻井学長(左)



協定校のブースを訪問し情報交換



## サマーコース2018 「日本文化コース」を実施

短期の高知滞在を通じて高知の良さや高知大学の留学生生活を体験してもらうことを目的として、7月2日から11日までサマーコース「日本文化コース」を実施しました。イェーテボリ大学(スウェーデン)、インランドノルウェー応用科学大学(ノルウェー)、ユニバーシティ・カレッジ・コペンハーゲン(デンマーク)から6名の学生が参加しました。

高知城、歴史博物館等を訪れ専門家の解説を受けたほか、よさこい踊りや土佐和紙漉き、書道などを体験し、日本文化や地域の歴史、伝統について理解を深めました。研修最終日には、義務教育学校土佐山学舎を訪問し、地域と連携した地域課題解決への取組や、中山間地域の学校運営について学ぶとともに、授業やクラブ活動に参加し、生徒との交流を行いました。

参加学生からは「書道を通じて日本の文化を多く学んだ」「来年予定している短期留学は高知大学に来たいと思うようになった」などの感想が寄せられました。



よさこい踊りを体験



地元義務教育学校の授業に参加し、生徒と交流

## 高知大学 第11回演習林トレイルランニングレースを開催

7月1日に「第11回高知大学演習林トレイルランニングレース2018」を開催しました。

学生の実習フィールドである登山道や林道など起伏の激しい演習林(高知県嶺北フィールド)の山中を走ることで森林に関心を持っていただくことを目的としており、参加者わずか29人で始まったこの大会は、今年で11回目。



元氣よくスタートするランナー

県内外から257名が参加し健脚を競ったレースは、強風と時折降る雨に打たれながら、枯れ枝や倒木、沢、獣が通る細い急斜面を走り、30kmのミドルコースは75名・15kmのショートコースは181名が完走しました。

## 高知大学生が「よさこい祭り」で踊りを披露

8月9日から12日までの4日間、よさこい祭りが開催され、第65回目の今年は、県内外、海外からも合わせて総勢207チーム、約1万8000人の踊り子が、高知市内16会場で演舞を繰り広げました。

高知大学生チームは、総勢7チーム「高知学生旅鯨人、よさこいチーム炎〜ほむら〜、学生よさこいチーム〜絆恋〜、学生団体コンパスよさこいチーム叢雲(むらくも)、医学部よさこいチーム醫-KUSUSHI-、南溟寮、日章踊り子隊」が、よさこい祭りを彩る5大要素の地方車(先導トラック)、音楽、衣装、鳴子、踊りを披露しました。

全てはこの日のためという熱い思いが生み出すエネルギーでパワフルな踊りや、例年見物人を魅了している寮生達の一風変わった踊りは、会場を熱気と笑いの渦に包み込みました。



地元商店街で踊る学生

## 「オーテピア」高知みらい館で海洋コア総合研究センターの紹介や研究などを展示

7月24日に新図書館複合施設「オーテピア」5階にオープンした「高知みらい科学館」と高知大学海洋コア総合研究センター、海洋研究開発機構「高知コア



研究所」は、6月29日にパートナー協定を締結し、最先端の研究成果を科学館で子どもたちに伝える事業などを行っています。みらい科学館では、海底を掘削して採取した試料の分析を展示したり、科学教室などを開催する予定です。

## 第45回中四国女子学生剣道優勝大会(団体戦)で女子剣道部が準優勝 4年連続で全日本出場を決定!

9月2日に、岡山市総合文化体育館において、第65回中四国学生剣道優勝大会・第45回中四国女子学生剣道優勝大会(主催:中四国学生連盟)が開催され、女子剣道部が準優勝し、中四国代表として4年連続で全日本女子学生



剣道優勝大会(11月11日、愛知県春日井市)への出場権を獲得しました。男子剣道部員の岩崎太門さん(農学部4年)、女子剣道部員の三村莉穂さん(教育学部2年)が優秀選手賞を受賞しました。

## 高知大学から寄附のお願い

- **高知大学修学支援基金** ..... 本基金は、修学意欲を持ちながら、厳しい家計状況によりそれを断念せざるを得ない学生に対して給付する奨学金として活用します。
- **高知大学さきがけ志金** ..... 高知大学の理念である『地域社会及び国際社会に貢献しうる人材育成と学問、研究の充実・発展を推進する』ため、これらに対する事業の支援とその環境の更なる整備・充実を図ることを目的とします。  
対象者/本資金の趣旨に賛同いただける個人・法人・団体等 (本志金の趣旨をご理解いただき、なにとぞ複数口でのご協力をお願いします。)  
金額/個人による寄附金につきましては、1口1千円を単位とします。法人・団体等による寄附金につきましては、1口1万円を単位とします。

お問い合わせ先 **高知大学総務部総務課** TEL.088-844-8100 FAX.088-844-8738 E-mail:sj02@kochi-u.ac.jp URL:http://www.kochi-u.ac.jp/ 「高知大学修学支援基金」及び「高知大学さきがけ志金」(教育・研究・社会貢献活動による支援)に寄附を行う際に、インターネット決済サービスによる「クレジットカード決済」、「コンビニ決済」、「Pay-easy決済」がご利用いただけます。

## 高知大学 古本募金

読み終わった本で高知大学をご支援ください。高知大学古本募金は、皆様から読み終えた本・DVD等をご提供いただき、その査定換金額が高知大学に寄附される取組です。古本募金を通じて集まった寄附金は「高知大学さきがけ志金」として受け入れ、本学の教育研究・社会貢献活動の向上のために役立てられます。

● **お申込み・お問い合わせ**  
☎ **0120-29-7000** 高知大学古本募金  (受付9:00~18:00) 運営協賛:古本募金きしゃぼん(嵯峨野株式会社)

## 高知大学教職大学院「第1回土佐の皿鉢ゼミ」を開催

8月29日、「第1回土佐の皿鉢ゼミ」(主催:高知大学大学院総合人間自然科学研究科専門職学位課程教職実践高度化専攻(教職大学院)、後援:高知県教育委員会、高知県市町村教育委員会連合会)を朝倉キャンパスで開催し、約130名が参加しました。

本ゼミは、教職大学院生(学部卒院生、現職院生)の実践研究の中間発表を中心として、専任教員(研究者教員、実務家教員)、県下の教育関係者が一堂に会して、教育課題を多様な視点から分析し、課題解決のための実践を探索することを目的として開催しました。

ゼミでは、文部科学省高等教育局大学振興課教員養成企画室の高田行紀室長が「教職大学院の意義と未来」と題した講話のほか、教職大学院生から学校経営計画の効果的な運用の方策など様々な実践研究のポスター発表、積極的なコース別討論会(学校運営コース、教育実践コース、特別支援教育コース)、全体討論会が行われました。参加者にとって、教育課題の対応及び教職大学院の実践研究等に理解を深め教育・研究の充実を促進する機会となりました。



挨拶をする櫻井学長



会場の様子



大学院生のポスター発表(特別支援教育コース)

## 旭食品株式会社と協定を締結 包括的連携協力に関する

高知県内に拠点を置く食品流通大手企業・旭食品株式会社との包括的連携協力に関する協定書調印式が、8月17日に高知大学で執り行われました。高知大学からは、櫻井学長をはじめ、辻田理事(総務・評価・地域・広報担当)、受田地域連携推進センター長が出席、旭食品株式会社からは、竹内代表取締役社長ら5名が出席し、櫻井学長と竹内社長が協定書に署名を交わし、連携協定を締結しました。

高知大学と旭食品株式会社はこれまでも、高知大学が運営する土佐フードビジネスクリエーター人材創出事業(土佐FBC)において、継続的な社員教育の場として講義の受講、流通関係講義への講師の派遣、企画運営委員会への参画等、相互に連携してきました。今回の協定締結を機に、更なる組織的連携を進めていくこととしています。



協定締結後、記念撮影をする出席者ら

高知大学で開催するイベントをご紹介します。

# イベントインフォメーション

2018 Autumn 秋号

## 11月3日(土・祝)・4日(日) 朝倉キャンパス「黒潮祭」

第69回黒潮祭のテーマは“Creation(創造)”。各学生団体の模擬店や発表、北体育館での各種ステージ等、今年も沢山のイベントをご用意して、皆さんの来学をお待ちしています。今年の黒潮祭は、どんな“Creation”をしているのか、ぜひご覧ください。4日(日)ホームカミングデーとの同時開催です。



**時間**  
3日(土・祝)……10:00～19:00  
4日(日)……10:00～17:30

**場所**  
高知大学朝倉キャンパス  
TEL:088-844-8149



黒潮祭マスコット  
キャラクター  
「しーちゃん」

## 11月3日(土・祝) 物部キャンパス「一日公開」

今年も教育研究活動の一端を紹介し、地域の皆様に親しんでいただくため開催します。ご家族連れ、友達同士で「大学何してる?行ってみようか」の好奇心を満たそう。「施設すごい!」留学生お国自慢の手料理、家族と一緒に「これ楽しい!」を体験できそう!(全面禁煙です)

**時間** 9:00～15:00  
**場所** 高知大学物部キャンパス  
TEL:088-864-5114



## 11月4日(日) 〈第9回〉ホームカミングデー

久しぶりに母校を訪れてみませんか?在学生・教員との交流をはじめ、各学部で様々なイベントや記念講演を行います。皆様のお越しをお待ちしております!



### 〈記念講演〉

**講師** NPO法人 黒潮実感センター長  
神田 優氏

**演題** 「高知の端っこ柏島発  
継続可能な里海づくりに向けた  
20年の歩み」

【場所】高知大学朝倉キャンパス



※詳しくは「高知大学総務部総務課」まで  
TEL.088-844-8116

### 2018年度 定期公演

12月15日(土) 奇術部 Trick or Treat  
第18回 マジシャンズパーティー

**時間** 開場18:30/開演19:00  
**場所** 高知県民文化ホール(グリーン)

12月15日(土) 高知大学演劇研究会  
第47回 高知大学演劇研究会定期公演

**時間** 未定  
**場所** 高知文化プラザかるぼーと(小ホール)

12月23日(日・祝) 高知大学合唱団  
第47回 高知大学合唱団定期演奏会

**時間** 開場13:00/開演13:30  
**場所** 高知県立美術館ホール

### 平成31年度 高知大学入試案内

#### 推薦入試Ⅰ(出願期間)

平成30年11月1日(木)～6日(火)  
**人教**(教育学・教科教育・特別支援教育、保健体育教育)  
**理医**(看護) **農**(暖地農学、森林科学、生産環境管理学)  
**地**

#### 推薦入試Ⅱ(出願期間)

平成30年11月1日(木)～6日(火)  
**医**(医)  
平成31年1月21日(月)～25日(金)  
**教**(科学技術教育を除く) **農**

#### 一般入試(前期日程・後期日程(出願期間))

平成31年1月28日(月)～2月6日(水)

人 人文社会科学部  
教 教育学部  
理 理工学部  
医 医学部  
農 農林海洋科学部  
地 地域協働学部  
さ 土佐さきがけプログラム

### 11月24日(土)・25日(日)

## 〈第58回〉 室戸貫歩開催!

高知市の朝倉キャンパスから  
室戸岬まで約90km。  
夜を徹して歩こう!

一般の方も  
ぜひご参加  
ください



## メルマガ配信中!

●月2回配信(第2・4金曜日)

高知大学からメルマガを配信しています。  
大学ホームページの「入試情報」  
「メルマガの登録はこちら」へ!

登録はこちら <http://daigaku.jc.kochi-u>



## 高知大学の最新情報を伝えたい THE こうちユニバーシティCLUB

高知大学の教育、研究、  
地域貢献等のホットな情報をお届けします。

スポンサー企業/ソフテック

番組ブログからも視聴できます!

●FM 高知(81.6MHz)  
毎週 日曜日(9:30～9:55)

放送中

<http://kochiuniversity.seesaa.net/>



●お問い合わせ先 皆様からのご意見・ご感想をお待ちしております。

 **高知大学**  
Kochi University

高知大学総務課

高知大学   <http://www.kochi-u.ac.jp/>

### お知らせ

広報誌Leadの  
バックナンバーを  
高知大学のHPで  
ご覧いただけます。

